

2年生 講義一覧

浄土教史概説Ⅱ (月曜日 1講時)

南 宏 信

授業のテーマ

浄土宗の形成と展開

授業の概要

法然上人による浄土宗開宗から、二祖聖光、三祖良忠を経て、七祖聖岡によって伝法制度が確立し、独立した教団へと展開していった歴史について概説する。

授業の目的・ねらい

浄土宗教師として必要な教養や知識を身につけるために、浄土宗における典籍・人物・歴史を理解し、的確に説明できるようになる。

毎回の授業テーマ・内容

- ・はじめに一法然上人の相承—
- ・法然門下の異流について
- ・鎮西聖光上人について
- ・記主良忠上人について
- ・良忠上人の門下（京都三派）について
- ・良忠上人の門下（関東三派）について
- ・了誉聖岡上人について
- ・西誉聖聰上人について
- ・聖聰上人の門下について
- ・伝法制度の変遷について
- ・道誉・感誉の伝法について
- ・関東十八檀林について
- ・僧侶養成制度について
- ・廃仏毀釈について
- ・廃仏毀釈以降

到達目標

立教開宗850年に渉る浄土宗の歴史を理解し、その知識を的確に説明できること。

授業時間外の学習（予習・復習）についての具体的な指示

事前にテキストを一読しておくこと。

その際『新纂浄土宗大辞典』などの工具図書を駆使し、読み・意味を調べておくこと。

受講に当たっての留意事項

積極的な態度で受講すること。

不要な私語や居眠りは厳禁である。

成績評価の基準

定期試験（教室） 70% 講義内容から課題を出す。

授業内課題 30% 講義中にレポートを課す。

テキストについて

『浄土宗史』 成田俊治・伊藤唯眞・平祐史（浄土宗） 418円

参考文献について

『浄土宗史概説』 恵谷隆戒（佛教大学） 943円

『中世浄土宗教団史の研究』 玉山成元（山喜房仏書林） 9,900円

『浄土宗大年表』 藤本了泰編（山喜房仏書林） 27,500円

『近世浄土宗史の研究』 宇高良哲（青史出版） 14,300円

『浄土宗の展開と総本山知恩院』 今堀太逸（法蔵館） 8,250円

浄土学概論Ⅱ (月曜日 2講時)

伊 藤 茂 樹

授業のテーマ

仏教のなかで浄土教がどのような役割から生まれたのか。またどのような特色を持つのか知り、その本質を学びます。

授業の概要

インド、中国、日本。法然上人とその周辺の浄土教思想を学ぶ。

授業の目的・ねらい

浄土教の概要を理解します。浄土教はインド、中国、日本に伝わります。三国に広がる浄土教の概要を理解します。浄土教の概要を理解する中で、法然浄土教の特色を理解することを目的とします。

毎回の授業テーマ・内容

- ・浄土教の基礎 凡入報土 所求、所帰、去行
- ・浄土教（インド・中国・日本）の概略
- ・浄土教の師資相承
- ・末法思想
- ・浄土教における教相判釈
- ・観察と称名
- ・誓願
- ・菩提心と三心
- ・浄土教の人間観

到達目標

浄土教の基礎的な用語を理解する。称名念仏、観察念仏、本願、信行。インド中国日本に伝わる浄土教の概要を徹底的に理解することを目標とします。

授業時間外の学習（予習・復習）についての具体的な指示

教科書を読んでください。講義の後は、ノートを整理してください。

成績評価の基準

定期試験（教室） 80%
その他 20% 受講態度 等

テキストについて

『浄土学概論』 坪井俊映（佛教大学通信教育部） 2,409円

伝道学Ⅱ（月曜日 4講時）

日下部 謙 旨

授業の概要

伝道の基本と実践。

授業の目的・ねらい

伝道の基本を復習、確認しつつ、実践（作法、実演発表）を通して、伝道者（教師）のあるべき姿を考え、伝道の力をつける。

毎回の授業テーマ・内容

- ・御忌
- ・伝道作法 実践
- ・法話の構成
- ・テスト
- ・法話の構成復習、具体例
- ・法話の実演発表
- ・質疑応答

授業時間外の学習（予習・復習）についての具体的な指示

15分間程の法話実演発表。

成績評価の基準

定期試験（教室） 40%
授業内発表 40%
その他 20%（授業出席10% 受講態度10%）

テキストについて

『伝道』 恵谷隆戒（浄土宗） 275円

参考文献

『法然上人のお言葉－元祖大師御法語－』（知恩院布教師会） 509円

仏教福祉（月曜日 5講時）

永田真隆

授業のテーマ

仏教福祉概論

授業の概要

日本における仏教福祉思想とその展開を学ぶ。

授業の目的・ねらい

先人による仏教福祉思想のあゆみを理解し、現代社会において「生老病死」と向き合うことのできる僧侶としての姿勢を身につける。

毎回の授業テーマ・内容

一学期

- ・ 仏教福祉を学ぶ意義
- ・ 仏教福祉に関連する用語の整理
- ・ 日本古代における福祉思想
- ・ 日本中世における福祉思想 1（鎌倉新仏教）
- ・ 日本中世における福祉思想 2（伝統仏教）

二学期

- ・ 浄土宗祖師の教説と福祉思想
- ・ 日本近世における福祉思想
- ・ 日本近代における福祉思想

三学期

- ・ 仏教におけるターミナルケア
- ・ 現代における仏教福祉
- ・ これからの仏教福祉

到達目標

- ①先人による仏教福祉思想のあゆみを説明できる。
- ②現代社会の「生老病死」の諸問題に対して議論できる力をつける。

授業時間外の学習（予習・復習）についての具体的な指示

講義中に紹介する参考文献等を参照しながら不明箇所のないようにつとめる。

成績評価の基準

定期試験（教室） 70% 授業内容に沿った筆記試験を行い、到達度を評価する。
授業内発表 30% 授業を十分理解できているか、授業内の発表により評価する。

テキストについて

適宜プリントを配布する。

参考文献について

- 『仏教社会福祉入門』 日本仏教社会福祉学会（法蔵館） 1,980円
- 『日本仏教福祉思想史』 吉田久一 長谷川匡俊（法蔵館） 3,190円
- 『浄土宗の教えと福祉実践』 浄土宗総合研究所仏教福祉研究会（ノンブル社） 2,750円
- 『日本仏教福祉概論—近代仏教を中心に—』 池田英俊 芹川博通 長谷川匡俊（雄山閣出版） 3,300円
- 『ともに生きる仏教—お寺の社会活動最前線—』 大谷栄一（ちくま新書） 902円

書道（火曜日 1・2講時）

金田充康

授業のテーマ

書道の基礎的な用具（筆・墨・硯・紙）の知識と使用法、技術の習得。

中国、日本の書道史及び書道文化の広範な理解。

授業の概要

書道史、鑑賞法に精通する「書学」と、書道の技法と表現を追求する「書作」、そこから派生する「書道文化」を並行して学び、「書」に対する広い視野を養成する。鑑賞を通じて筆者自身の人間性だけでなく時代、社会、風土、文化などを探るとともに、美を支える技法を探っていく。

授業の目的・ねらい

書道と書道文化、芸術性に興味感心をもたせ、創造力を養う。

毎回の授業テーマ・内容

- ・ 書学
中国書道史

- 日本書道史
- ・書作
 - 古典の鑑賞と臨書
 - 楷書法 孔子廟堂碑 九成宮醴泉銘 雁塔聖教序
 - 行草書法 十七帖 蘭亭叙 集字聖教序 風信帖
 - 篆隸書法 孔宙碑 曹全碑
 - 仮名書法 粘葉本和漢朗詠集
 - 写経
 - 毎日の写経（浄土三部経）
 - 作品制作
 - 浄土宗芸術祭、大学祭への出品
 - 実用書法
 - 寺院ポスター、塔婆
 - 篆刻
 - 自用印の制作
- ・書道文化
 - 書跡鑑賞研究
 - 文房四宝（筆・墨・硯・紙）の基本的使用法
 - 表装研究
 - 古筆学

到達目標

- 書道の基礎的な用具（筆・墨・硯・紙）の知識と使用法、技術の習得。
- 中国、日本の書道史及び書道文化の広範な理解。
- 浄土三部経全文書写。
- 掛け軸作品制作。
- 作品集製作。
- 篆刻作品集制作。

授業時間外の学習（予習・復習）についての具体的な指示

毎日の写経、清書作品の提出。用具用材の整備。

成績評価の基準

- | | | |
|-------|-----|---------------------|
| 授業内課題 | 70% | 課題は欠席しても提出すること |
| その他 | 30% | （授業出席 10% 授業態度 20%） |

テキストについて

『書の古典と理論』 全国大学書道学会 編（光村図書出版） 2,200円

華道（火曜日 3・4 講時）

大津光章

授業のテーマ

日本の伝統文化である華道を知ることにより、日本人が本来持っている自然への捉え方や共生の持つ意味を考え、且つ実作することによって表現の楽しさ大切さを学ぶ。

授業の概要

華道は、いろいろな要素が複合されながら、成立をみました。

華道が成立してゆく大きな流れと、その背景にどのようなものがあるのかを知ることにより、我々日本人が持っていると言われる、独自の自然感やその周りにある文化の形成を探っていきます。

また、佛教のわが国への伝来によって、供養のひとつとして挙げられる、「供花」の発達を追いながら、佛教と日本人、また自然とのかかわりを再確認してゆきます。

授業の目的・ねらい

日本人の奥底にある自然感や死生観を考え、その成立をみてゆく。

華道を中心として構成される、文化の内容に触れる。

いのちを深く見つめると同時に、共に生きる大切さを考える。更に、他への心遣いを知り表現する喜びを感じる。

毎回の授業テーマ・内容

華道の成立とその背景に、何があるのかを探り、華道史の大まかな流れを講義することにより、日本人の心情や考え方を見つめる。

仏教とどのようにかかわって来たのか、特に浄土教の果たした役割を認識することで、供花が具えられている意味を学んでゆく。

また、実際に花に触れかたちにしてゆくことで、いのちの大切さと表現する喜びを感じてもらう。

到達目標

日本文化の背景を理解する。

いのちの大切さを感じる。

身の回りや他への心遣いを考える。

表現することを知る。

授業時間外の学習（予習・復習）についての具体的な指示

講義について

テキストを参考に講義内容を理解するように務める。

実習について

水揚げを施し、生け直し、修得するよう務める。

心構えについて

周りの自然や風景を観察し、その生態や配置に心配るように務める。

成績評価の基準

定期試験（課題） 30% 定期の筆記試験は行いませんが、レポートの提出があります。

授業内発表 40% 講義内容と実習作品の理解度の評価

授業内試験 30% 実習作品が特に秀でている場合

テキストについて

『はじめよう いけばな！』（公財）日本いけばな芸術協会 編 500円

伝法概説（水曜日 1 講時）

稲岡 誓 純

授業のテーマ

三卷書講読

授業の概要

浄土宗の伝書である元祖法然上人作と云われる『往生記』、二祖弁阿聖光上人作の『末代念仏授手印』、三祖然阿良忠上人作の『良解末代念仏授手印鈔』の三卷書を講読していく。

授業の目的・ねらい

浄土宗の伝法の歴史を知り、さらに三卷書を講読することによって、浄土宗の教えを正しく受け止めることを目的とする。

毎回の授業テーマ・内容

①浄土宗の伝法の歴史

②三卷書の講読

・法然上人作の『往生記』の講読と理解

（難遂往生機、種々念仏往生機、一紙小消息）

・二祖弁阿聖光上人作の『末代念仏授手印』の講読と理解

（四句の偈、末代念仏授手印の序、五種正行、正助二行、三心、五念門、四修、三種行儀、手次状、裏書）

・三祖然阿良忠上人作『領解末代念仏授手印抄』の講読と理解

到達目標

到達目標は、①浄土宗における伝法の由来と歴史を正しく理解すること。②三卷書を講読することによって浄土宗の教えを正しく受け取ること。

授業時間外の学習（予習・復習）についての具体的な指示

浄土宗の僧侶を目指す者にとって大変重要な講義であるので、事前にテキストの該当箇所をよく読んでから受講し、講義が終わればノートの整理をしっかりと行うこと。

受講に当たっての留意事項

ノートをしっかりとること。

成績評価の基準

定期試験（教室） 70% 到達目標に示した項目の到達度によって評価をする。

その他 30% 道場内での講義であるから、受講態度も評価の対象とする。

テキストについて

『三卷書・授菩薩戒儀』 浄土宗聖典編纂委員会（浄土宗） 1,100円

授業の概要

法然上人の教義書『選択本願念仏集』の、後半（第七章から第十六章）を中心に講読する。

授業の目的・ねらい

法然上人の著者と位置付けられる『選択集』を読み解いていくことにより、浄土宗の教義と、その思想的意義を理解する。

毎回の授業テーマ・内容

1. 前半（第一章から第六章）の復習
2. 第七章 光明唯摂念仏行者篇について
3. 第八章 三心篇について
4. 第九章 四修法篇について
5. 第十章 化仏讃歎篇について
6. 第十一章 約対雑善讃歎念仏篇について
7. 第十二章 付属念仏篇について
8. 第十三章 念仏多善根篇について
9. 第十四章 六方諸仏唯証誠念仏篇について
10. 第十五章 六方諸仏護念念仏行者篇について
11. 第十六章 以弥陀名号付属舍利弗篇について
12. 『選択集』まとめ

到達目標

『選択集』第7章～第16章の概要について説明することができる。

授業時間外の学習（予習・復習）についての具体的な指示

- ・『選択集』をあらかじめ読んでおくこと。
- ・各章に引用される「浄土三部経」の経文を確認すること。

受講に当たっての留意事項

浄土宗僧侶としての積極的な関心をもって授業に臨むこと。
各自で仏教辞典、古語辞典、漢和辞典を用意すること。

成績評価の基準

定期試験（教室） 80%
授業内発表 20%

テキストについて

『浄土宗聖典版 選択本願念仏集』 浄土宗聖典刊行委員会 編集（浄土宗） 1,100円

参考文献について

『選択集講座』 藤堂恭俊（浄土宗） 5,280円
『選択集全講』 石井教道（平楽寺書店） 8,580円

授業のテーマ

梵字悉曇

授業の概要

梵字悉曇文字の歴史。
梵字悉曇文字の毛筆による実習。

授業の目的・ねらい

悉曇梵字の基本と切り継ぎ点画。
本宗で使用される梵字悉曇文字の実習。

毎回の授業テーマ・内容

字母51字、板塔婆、角塔婆、十三仏、弥陀三尊、釈迦三尊、お名号、四天王などの毛筆による書写。

到達目標

梵字悉曇文字の理解と毛筆による書写の修得。

授業時間外の学習（予習・復習）についての具体的な指示

平生のお稽古を心がける。

成績評価の基準

定期試験（教室） 20% 授業内容の理解度の考査

定期試験（課題） 80% お手本に対する書写の完成度の考査
テキストについて
『梵字悉曇伝習帳』 服部良譽（佛敎大学宗教敎育センター） 1,000円

宗教法制（水曜日 4講時）

野田 雅史

授業のテーマ

憲法、宗教法人法、墓地、埋葬等に関する法律、税法等の広い分野に跨る宗教法制を対象とする。

授業の概要

配付する資料とテキストを使用しながら憲法、法律、判例等について説明をする。

授業内試験を行うこともある。

※この授業は、実務家教員による授業です。

授業の目的・ねらい

宗教法制は、憲法、宗教法人法、墓地、埋葬等に関する法律、税法等の広い分野に跨っている。

受講者がこれらを理解することを目的とする。

毎回の授業テーマ・内容

- ・宗教法人法の基本理念と憲法
- ・信教の自由に関する判例について
- ・政教分離に関する判例について
- ・宗教法人の設立
- ・宗教法人の規則
- ・宗教法人の機関
- ・宗教法人の機関に関する判例
- ・宗教法人の財務
- ・宗教法人の事業
- ・宗教法人の税務
- ・宗教法人と信者
- ・包括宗教法人と被包括宗教法人
- ・宗教法人の合併と解散
- ・所轄庁の権限と宗教法人審議会
- ・墓地、埋葬等に関する法律について
- ・墓地、納骨堂の経営

到達目標

授業内容を理解し、記憶すること

授業時間外の学習（予習・復習）についての具体的な指示

テキスト等を読むなどして、予習すること。

復習をしっかりとって、理解を深め、記憶すること。

成績評価の基準

定期試験（教室）	60%	
授業内試験	20%	
その他	20%	受講態度

テキストについて

『浄土宗宗教法制関係法令資料集〔第2版〕』（浄土宗） 1,980円

参考文献について

『宗教法人ハンドブック〔十訂版〕 設立・会計・税務のすべて』（税務経理協会） 1,760円

三経概説Ⅱ（水曜日 5講時）

西本 明央

授業のテーマ

『観無量寿経』・『阿弥陀経』の概説

授業の概要

浄土宗所依の經典である「浄土三部経」のうち、『観経』と『阿弥陀経』の解説を行う。

授業の目的・ねらい

『観経』・『阿弥陀経』それぞれの成立と内容について理解する。両経とも法然上人が『選択集』等で

引用する箇所注意しながら読み進める。また特に『観経』においては、善導大師の解釈と、浄土教以外の諸師の解釈を対比して、浄土宗義との関連について考えていく。

毎回の授業テーマ・内容

- 第1回「浄土三部経」について
- 第2回『観経』の成立と構成について
- 第3回『観経』研究史
- 第4回『観経』序分(1) 王舎城の悲劇
- 第5回『観経』序分(2) 三福
- 第6回『観経』第一観(日想観)～第六観(宝楼観)
- 第7回『観経』第七観(華座観)・第八観(像観)
- 第8回『観経』第九観(真身観)
- 第9回『観経』第十観(観音観)～第十三観(雑想観)
- 第10回 九品の概説と上品
- 第11回 中品と下品上生・中生
- 第12回 下品下生、得益分、流通分
- 第13回『阿弥陀経』について 成立と諸本
- 第14回『阿弥陀経』概説 依正二報
- 第15回『阿弥陀経』概説 念仏往生と諸仏証誠

到達目標

『観無量寿経』と『阿弥陀経』の梗概、および浄土宗における受容のありかたを理解する。

授業時間外の学習(予習・復習)についての具体的な指示

講義予定の範囲を通読しておくこと。授業をよく聴くこと。

成績評価の基準

- 定期試験(課題) 80%
- 授業内発表 20% 分担を決め、毎回発表してもらう。

テキストについて

講義内でコピーを配布

円頓戒概説 (木曜日 1 講時)

齊藤隆信

授業のテーマ

円頓戒を学ぶ

授業の概要

浄土宗が相伝している円頓戒の歴史・思想・実践方法を学びます。

授業の目的・ねらい

円頓戒を実生活に運用できるようにする為に、その歴史とその教えや目的と意義を明確に説明できることを目的とします。

毎回の授業テーマ・内容

- 1 学期
 - ・戒律概説
 - ・円頓戒の歴史
 - ・円頓戒の思想(三聚浄戒)
 - ・円頓戒の思想(梵網戒)
- 2 学期
 - ・最澄の功績
 - ・法然の授戒と持戒
 - ・聖尙の伝戒論
 - ・十二門戒儀
- 3 学期
 - ・念仏と円頓戒
 - ・円頓戒の実践方法
 - ・円頓戒の現代的意義
 - ・復習

到達目標

円頓戒の理念と実践を説明することができる。

授業時間外の学習（予習・復習）についての具体的な指示

講義で学んだことを、どのように日常生活の中に活用できるのかを常に考えること。

成績評価の基準

定期試験（教室） 60%

授業内発表 40%

テキストについて

『円頓戒講説』 齊藤隆信（齊藤隆信研究室 大学内大垣書店） 1,650円

『三巻書・授菩薩戒儀』 浄土宗聖典刊行委員会（浄土宗） 1,100円

仏典概説Ⅱ（木曜日 2講時）

加藤弘孝

授業のテーマ

日常勤行式の解説

授業の概要

浄土宗の日常勤行式の解説

授業の目的・ねらい

浄土宗の日常勤行式の各偈文（香偈、三宝礼、四奉請など）の出典、およびその内容を解説する。平常、読誦する日常勤行式の各偈文は、様々な仏典より抽出されたものである。その偈文の出典を探り、内容を解説していく。なお「一枚起請文」などのご法語も解説する。

毎回の授業テーマ・内容

- ・浄土宗の日常勤行式
- ・香偈
- ・三宝礼
- ・四奉請、三奉請
- ・懺悔偈
- ・開経偈
- ・誦経
- ・諸回向偈
- ・摂益文
- ・総回向偈
- ・総願偈
- ・三身礼、送仏偈
- ・一枚起請文
- ・一紙小消息

到達目標

日常勤行式の各偈文の意義を理解すると同時に全体の構成を把握できるようにする。

授業時間外の学習（予習・復習）についての具体的な指示

日常勤行式の各偈文の意味、内容を意識して、平素より読誦すること。

各偈文の音読、訓読を平素から反復しておくこと。

適宜、配布するプリントを復習に用いること。

受講にあたっての留意事項

あらかじめテキストを通読しておくこと。

成績評価の基準

定期試験（教室） 50%

授業内発表 20%

その他 30%（感想記述 10% 受講態度 20%）

テキストについて

適宜、プリントを配付する。

『浄土宗日常勤行の話』 香月乗光（浄土宗出版室） 990円

詠唱Ⅱ（木曜日 3・4講時）

眞泉善章

授業のテーマ

浄土宗吉水流詠唱

授業の概要

念仏の「助業」としての「吉水流詠唱」の意味・内容を講義し、法具を用いた実践を通じて、それを体得する。なるべく多くの「御詠歌」と「和讃」を唱えることができるようにならう。浄土宗僧侶として、将来の教化実践の場面で、「詠唱」を通じて「声」と「言葉」の持つ力を發揮して、教化の実をあげることができるように指導する。

授業の目的・ねらい

- ①念仏の「助業」としての「吉水流詠唱」の意義・内容を会得する。
- ②法具を用いた実践を通じて、「吉水流詠唱」を体得する。
- ③学外授業での「詠唱奉納」を通じて、「吉水流詠唱」を感得する。
- ④上級詠唱講司の資格を取得することを通じて、「吉水流詠唱」を味得する。

毎回の授業テーマ・内容

- 第1回：吉水流詠唱の定義の復習と確認
- 第2回：吉水流詠唱の意義の復習と確認
- 第3回：吉水流詠唱の内容の復習と確認
- 第4回：吉水流詠唱の歴史の復習と確認
- 第5回：吉水流詠唱の法具の作法の復習と習熟
- 第6回：吉水流詠唱の威儀作法の復習と習熟
- 第7回：吉水流詠唱の御詠歌について①
- 第8回：吉水流詠唱の御詠歌について②
- 第9回：吉水流詠唱の御詠歌について③
- 第10回：吉水流詠唱の和讃について①
- 第11回：吉水流詠唱の和讃について②
- 第12回：吉水流詠唱の和讃について③
- 第13回：吉水流詠唱の活用・応用について
- 第14回：吉水流詠唱の実践（授業内試験・筆記試験）
- 第15回：吉水流詠唱の実践（授業内試験・実技試験）

到達目標

- ①法具（鈴・鉦）を用いて、なるべく多くの御詠歌・和讃を唱えることができる。
- ②多くの御詠歌・和讃の内容を説明することができる。
- ③上級詠唱講司の資格を取得する。

授業時間外の学習（予習・復習）についての具体的な指示

- ①法具を用いた御詠歌・和讃のお唱えを習熟するために、日常的に反復練習をすること。
- ②御詠歌・和讃の内容・意味の会得は、お唱えのために必須であるので、テキストや参考文献の該当部分をよく復習して理解すること。

受講に当たっての留意事項

詠唱の技術を習得することのみが目的ではなく、吉水流詠唱の実践を通じて、浄土宗義・法然思想を体得することを最終目的として、自主的な取り組みを期待します。詠唱の実践体験として、授業期日と日程が合う場合には、学外研修や聖日法要の中で、また各団体の吉水流詠唱奉納大会等に参加して、詠唱奉納を体験してもらおう。

成績評価の基準

授業内発表	30%	法具を用いて、詠唱講司としての課題曲の御詠歌・和讃を唱えてもらう。その際、作法の定着度・音程の確実性・お唱えの熟練度などを確認して評価する。
授業内試験	40%	法具を用いて、御詠歌・和讃を唱えてもらう。決められた作法・音程・達成度などを評価する。
授業内課題	30%	吉水流詠唱の御詠歌・和讃、特に基本的な曲目の内容・意味を自分の言葉で説明してもらい、その理解の定着度に応じて評価する。

テキストについて

詠唱Ⅰに継続してテキスト・法具類を準備すること。また、必要に応じて参考資料を配付する。

- 『吉水流詠歌集 音符用』 松濤基道 編集（浄土宗）1,000円
- 『吉水流和讃集 音符用』 松濤基道 編集（浄土宗）1,000円
- 『浄土宗詠唱マニュアル』 松濤基道 編集（浄土宗）1,500円
- 『浄土宗吉水流和讃解説書』 松濤基道 編集（浄土宗）1,000円

参考文献について

授業中に、必要に応じて指示する。

- 『法然さま 二十三のお歌』 伊藤真宏 (浄土宗出版) 462円
 『吉水流詠讃歌集CD (3枚組)』 松濤基道 編集 (浄土宗吉水講) 6,000円
 『はすうた—極楽浄土巡礼歌—』 伊藤真宏 (浄土宗鳥取教区・教化団)
 『近代仏教教団とご詠歌』 新堀欲乃 (勉誠出版) 6,600円

仏教学概論Ⅱ (金曜日 1講時)

中御門 敬 教

授業のテーマ

大乘仏教の基本的な知識を修める。

授業の概要

大乘仏教の思想と歴史について学ぶ。

授業の目的・ねらい

浄土宗僧侶となる者にとって必要な学問は宗乗と余乗である。仏教学概論は後者に含まれる。インド仏教を基本とする伝統的な教義を学ぶことによって、宗乗の学びの基礎力を身につけることを、本授業の目的とする。

毎回の授業テーマ・内容

1. 大乘仏教の特質
 - ・大乘の成立とその意味
 - ・その特質
2. 菩薩の思想
 - ・歴史的経緯
 - ・菩薩観の展開
 - ・大乘菩薩の理想
 - ・浄土宗に見る菩薩の精神
 - ・自利即利他の起源
3. 六波羅蜜
 - ・六波羅蜜の意義内容
4. 大乘仏教の二大思潮
 - ・中観派
 - ・唯識派
5. 地獄と極楽

到達目標

学んだことを、法話などに活用できるようになる。

授業時間外の学習 (予習・復習) についての具体的な指示

授業が終わった後に、ノートをチェックして、疑問点を整理しておくこと。そして、その疑問点を次の授業中に質問すること。

受講に当たっての留意事項

積極的な授業への参加が望まれる。

グーグル社の「クラスルーム」のドキュメント機能を利用して、レポート類を提出して頂きます。その際には、事前により「提出方法」をお伝えします。授業を通して、佛教大学が用いているグーグル社の「クラスルーム」の使い方について、しっかりとお伝えします。

成績評価の基準

定期試験 (教室)	70%
授業内発表	30%

テキストについて

『新訂仏教学概論』 教科書改訂検討委員会編 (執筆者: 真田康道、吹田隆道、平岡聡、南清隆)
 (浄土宗) 1,100円

参考文献について

授業中に当方より配布する。

仏教史概説Ⅱ (金曜日 2講時)

坪 井 剛

授業のテーマ

古代から近世までの仏教史を学ぶ

授業の概要

古代から近世に至るまでの日本における仏教史に係わる史料を、様々な角度から分析することから、各時代における仏教の位置付けを考察する。

授業の目的・ねらい

- ・日本仏教について、歴史的な観点から把握できるようになる。
- ・基礎的な歴史史料を解釈できるようになる。

毎回の授業テーマ・内容

- ・日本への仏教伝来
- ・『日本書紀』 仏教伝来記事の検討
- ・飛鳥時代① 三宝興隆の詔
- ・飛鳥時代② 大化改新と仏教
- ・奈良時代① 僧尼令の規定
- ・奈良時代② 僧侶の山林修行
- ・平安時代① 最澄の天台宗と空海の真言宗
- ・平安時代② 八宗体制の確立
- ・平安時代③ 古代仏教秩序の崩壊と浄土教の盛行
- ・鎌倉時代① 中世仏教に関する捉え方
- ・鎌倉時代② 顕密仏教と国家
- ・鎌倉時代③ 浄土宗と法難事件
- ・室町時代① 禅宗の盛行
- ・室町時代② 日蓮宗の京都進出
- ・戦国時代 一向一揆の形成と展開
- ・織豊期 新儀八宗の成立
- ・江戸時代① 本末制度と寺請制度
- ・江戸時代② 近世的異端の成立
- ・江戸時代③ 排仏論の展開と仏教者の対応
- ・明治時代 廃仏毀釈と寺社を巡る新たな枠組み

到達目標

- ・各時代の仏教の特徴について、説明できるようになる。
- ・現代の仏教が歴史的な所産であることを理解できるようになる。

授業時間外の学習（予習・復習）についての具体的な指示

- ・毎回配布する授業資料を通読し、授業内容について確認しておくこと。

成績評価の基準

定期試験（教室）	60%	授業内容に沿った筆記試験を行い、到達度を評価する。
授業内課題	40%	毎回の授業内容を十分理解できているか、授業内での課題等で総合的に評価する。

参考文献について

- 『日本仏教史—思想史としてのアプローチ』 末木文美士（新潮社） 781円
- 『日本仏教史 古代』 速水侑（吉川弘文館） 2,640円
- 『日本仏教史 中世』 大隅和雄・中尾堯編（吉川弘文館） 2,640円
- 『日本仏教史 近世』 圭室文雄（吉川弘文館） 3,080円

同和教育（金曜日 3講時）

八橋秀法

授業のテーマ

浄土宗教師に求められる、人権に対する意識を高める。

授業の概要

日本固有の人権問題である部落差別問題をはじめとする様々な差別や人権問題について、法然上人の万人平等救済の思想を踏まえつつ、共に学び、共に考えていく。

授業の目的・ねらい

部落問題に対する正しい理解と認識を持ち、様々な人権問題について考え行動できる感性を磨く。

毎回の授業テーマ・内容

- ・人権の定義、人権感覚
- ・部落差別の歴史
- ・差別事象

- ・差別問題に対する取り組み
- ・佛教の平等思想
- ・法然上人の万人平等救済思想
- ・現代社会に存在する様々な人権問題
- ・佛教と人権

到達目標

様々な人権問題に対して、浄土宗教師として、主体的に関わることができる。

授業時間外の学習（予習・復習）についての具体的な指示

講義を聴くだけでなく、自分でもしっかりと考えること。

日々、様々な形で報道される差別や人権に関わる問題に対しても、意識を向けるように努める。

成績評価の基準

定期試験（教室）	60%
授業内発表	20%
授業内課題	20%

テキストについて

浄土宗人権教育シリーズⅠ『平等へのめざめ』 浄土宗編（浄土宗） 1,320円

参考文献について

適宜、資料を配付する。

浄土宗人権教育シリーズ5『業を見すえて』 浄土宗編（浄土宗） 990円

実践仏教学4（金曜日 4講時）

八橋秀法

授業のテーマ

浄土宗における各種法要の解説。

授業の概要

浄土宗における各種法要について、由来・儀礼の意味について解説する。

授業の目的・ねらい

日常勤行式という基本を踏まえた上で、浄土宗が伝承している各種法要を理解する。

毎回の授業テーマ・内容

仏教実践の一手段である各種法要について講義を行う。

- ・年中行事
- ・盂蘭盆会
- ・施餓鬼会、など

到達目標

各種法要とその中で勤める儀礼の意義について理解する。

授業時間外の学習（予習・復習）についての具体的な指示

積極的に学び知ろうとする意欲を持つこと。

成績評価の基準

定期試験（教室）	60%
授業内発表	20%
授業内課題	20%

テキストについて

『浄土宗勤行法』（佛教大学） 2,500円

『浄土宗法要集上・下』 浄土宗総合研究所（浄土宗） 各3,300円

『法然上人のお言葉：元祖大師御法語』 知恩院浄土宗学研究所編集委員会編訳（総本山知恩院布教師会） 509円

参考文献について

適宜、資料を配付する。

実践仏教学5（金曜日 5講時）

八橋秀法

授業のテーマ

浄土宗の各種法要の実習。

授業の概要

浄土宗寺院で勤められる各種法要の実習を行う。

授業の目的・ねらい

日常勤行式の基本を活用して、浄土宗伝承の各種法要、威儀、音声等を習得する。

毎回の授業テーマ・内容

実践仏教学4で解説した各種法要について、構成や偈文をより詳しく理解した上で実習を行う。

到達目標

各種法要を端正に執行することが出来る。

授業時間外の学習（予習・復習）についての具体的な指示

「道場」という場を大切に、日々の生活の中で習い覚えること。

成績評価の基準

定期試験（教室） 60%

授業内発表 20%

授業内課題 20%

テキストについて

『浄土宗勤行法』（佛教大学） 2,500円

『浄土宗法要集 上・下』 浄土宗総合研究所編（浄土宗） 各3,300円

『縁の手帖』 浄土宗総合研究所編（浄土宗） 187円

参考文献について

適宜、資料を配付する。

法務実習Ⅱ（土曜日）

南 忠 信

授業の概要

宗祖の恩を知る。

授業の目的・ねらい

知恩院は法然上人の御遺跡、専修念仏発祥の聖地である。法然上人の御影のお側での法務実習を通して宗祖への畏敬の念を培う。又「信は莊嚴より起る」と言われるが先ず清掃より始まる。諸堂での作務は自行即化他行であることを学習する。

毎回の授業テーマ・内容

1. 日中法要での勤行、念仏、伴僧、諸堂での作務、志納所での寺務などを実践することにより僧として必要な法務、実務の習得を目指す。
2. 御忌大会において浄土宗最大規模の法要を体験することにより、浄土宗の法要形態を学ぶ。
3. 彼岸会法要では、長時間の正座に耐えられるよう普段より鍛練しておくこと。

授業時間外の学習（予習・復習）についての具体的な指示

自から主体的に学び摂ろうとする積極性を求める。

常に参詣者の目に触れる為、礼儀作法に留意し真摯な態度で実習に臨むこと。

成績評価の基準

その他 実習態度、出席率を重視する。

※ テキスト・参考文献の価格は変更となる場合があります。